



観光特急「あをによし」の美的特徴

2022年4月29日に、近畿日本鉄道株式会社（以下、近鉄）の観光特急列車「あをによし」の運行が始まった。

大阪・奈良・京都を結ぶ豪華特急列車で、4両1編成で運行されている。1・3・4号車にはツインシート（1列+1列）、2号車にはサロンシート（3~4名用のコンパートメント形式の専用席）と販売カウンターがある。販売カウンターには、東大寺の正倉院にも残る「校倉造（あぜくらづくり）」の建築構造が利用されている。

車両名称「あをに（青丹）よし」の「に」は土を表し、青丹は緑色の顔料の土・岩緑青を意味する。顔料の青土が奈良坂で産したところから、「あをによし」は古都・奈良に掛かる枕詞になっており、国宝や世界遺産が数多く存在する古都の美を表象している。外装には天平時代の高貴な色・紫色のメタリック塗装が施され、側面には平城京を表象する天平文様が、エンブレムには瑞鳥・鳳凰を表す「吉祥文様・花喰鳥」があしらわれている。

近鉄の観光特急列車には、大阪と吉野を結ぶ「青の交響曲（Blue Symphony）」もある。これらは、日本の伝統美を重視する傾向の一例と考えられる。 （吉村耕治）

言葉凸凹 黄と青

「黄」と「青」は、典型的な補色の関係にある色である。

補色とは JIS の用語の定義では加法混色によって特定の無彩色刺激を作ることができる二つの色刺激となっている。

その意味で黄と青は対立構造を持つと言える。パーソナルカラーでは、イエローベースとブルーベースという分類を採用している。アメリトーン・カラーキー・ライブラリーでは key1 と key2 と分類している。オストワルト表色系のイエロー2とブルー14、NCS表色系の Y と B は共に反対色の位置にある。

中国の象形文字で黄は「火のついた火矢」で陽にあたり、青は「青草と清水」で陰の様相を表している。

陰陽五行説の五色は青赤黄白黒であり、五行説の霊獣では黄龍と青龍、季節は土用と春、方角は東と中央、気候は湿と風、五情は怨と喜を象徴する。

黄は金に、白は銀に通じて、中世ヨーロッパの紋章学では黄（金）は高貴、青は知識であり、黄はトパーズ、青はサファイア、黄は青年期、青は少年期、黄は太陽、青は木星、そして、黄は信仰、青は正義を表すとされていた。 （永田泰弘）

●色彩教材研究会の講座テーマ募集

色彩教材研究会は、色彩に関する学術・技術・芸術を教育するために利用する教材に関する知識を交換・研究し、教え方の改良を行い、教材の制作と普及を図ると共に、研究成果を社会に還元することを目的とする研究会です。立派なスローガンですね。

発足当時は、授業に使う紙のパネルを、集まって作る講座を数多く行なっていました。

次いで、パワーポイントが現れて、同内容の画像作成の初歩講座を数回にわたり開催しました。授業方法の革命でした。

昨年度の最後の講座は、2022年3月19日（土）の第5回色彩教材研究会オンライン講座「錯視と色彩」を北岡明佳立命館大学教授にお願いしました。その前は2021年8月23日にオンライン教材制作実習講座で「百均 USB 扇風機で回転混色機を作ろう」を実施しました。

イベントは研究会員の希望を満たすテーマを取り上げるべきです。あなたがどんな教材を必要としているかの情報こそ、必要なのです。その情報を、この通信の返信として、気楽に私あてに送信してください。匿名でも構いません。私から研究会の幹事会に伝えます。ご返事を楽しみにお待ちしております。 （永田泰弘）